

## 大切な資源のリサイクル～地球環境保全の取り組みを天職として～



2階事務所にて



大阪府産業振興の表彰



赤目自然農を説明される万記子夫人

大阪の中心部、梅田の近くに近畿産業本社工場、製紙原料の集荷選別加工場があります。真ん中に設置されたベルトコンベヤーを分別された古紙が昇っていき、圧縮機にかけられると1トンベースの四角の塊となり隣のスペースに積み重ねられていきます。ダンボール、新聞、雑誌などの古紙は同じ種類で集められ、リサイクルの行方によって新たな紙の原材料として製紙会社へと販売されていきます。

その創業、役割は明治からと非常に古く、またこれからの地球環境問題においては欠かすことのできない新しいテーマを持った産業として、近畿産業は世の中のニーズを担ってきました。資源を大切にすることから種々の付帯事業を展開し、地球環境保全への道を一途に辿っていく会社経営をご紹介します。



近畿産業（株）  
代表取締役  
傍島 真氏  
（新北支部）

### ●古紙リサイクル事業の展開

創業は明治18年、古紙回収販売業、山田商店として発足130年に及び、また終戦後の昭和23年には近畿産業株式会社に組織変更、現在に至ります。

近畿産業の生産能力は本社工場、長田工場を合わせて年間30,000トンに上ります。古紙回収先のトップは印刷会社、製本会社などで、そこからの運搬を業とする協力会社の回収が85%。自社にて引き取りが15%。それはデパートや契約オフィスから回収されます。分別圧縮後、原材料の用途に応じた販売先は、商社経由による中国や東南アジアへの輸出が20%。国内需要は北海道から九州までの製紙会社が80%です。

紙の生産は「紙1トンに100トンの水」といわれ大量の水を必要とします。水が豊富な静岡県富士市、愛媛県四国中央市などの製紙会社へ主に出荷されます。リサイクルは全世界の森林資源の伐採を少しでも減らし、次世代へと受け継がれる美しい地球の自然保護を望む精神により成り立つものと、その価値を信じています。

### ●1円のシンボルマーク

「このマークを見て何に見えますか」傍島さんの問いかけに、取材側はじっと会社概要のマークを見ました。近畿産業という社名から木が生え、ECOLOGY（エコロジー）と結んであります。「資源を大切に、という木のマークですか」と答えましたが、種明かしは1円の表デザインでした。「近畿産業から木が生まれている。古紙を利用すれば木を切らなくてもよいのではないか。1円のもったいなさを知ることからリサイクルが始まる」と語りました。この新入社員研修ではこのマークの意味につき熱を入れて伝えています。

IT革命の取りざたも今は昔、パソコンなしでは仕事はできないという最近の動向で、新聞を読むのも、本を読むのもデジタル化されていく中、近い将来2050年には紙媒体が2分の1になるといわれているそうです。これからは万全と思う一方、逆の心配も出てきました。紙の需要が落ち込むことがある場合に備えて多角的に業務を改革してきました。

### ●機密文書細断サービス

個人情報保護に関する法律が平成15年に施行され、どの企業においても顧客情報の漏れや預かり文書の始末に神経を使い注意を払ってきました。不要の書類を焼却するに当たっては焼却炉を持つ会社も少ないし、普通に古紙として出すには抵抗があります。そこで近畿産業では大型細断機を導入し、パピルスネットワークとして機密文章の引き取り細断サービスを業務に加えました。

エコアクション21の認定工場としては二酸化炭素の発生を伴う焼却より、細断して再び紙として利用できる方法が理想であり、機密漏えいのリスクを背負わないとして顧客からも重宝されています。また更に業務を拡大しオフィス家具、OA機器、パソコンなどをまるごと回収するサービスを加え、ビニールやプラスチックなど産業廃棄物の処理も業務にしてきました。

### ●食べ物を重視する自然農園

近畿産業の環境活動・社会への責任（CSR）の一環は赤目自然農塾です。二代前の社長、傍島咲子氏が自然農を啓発する川口氏との出会いにより影響を受け、平成3年に発足しました。コンクリートに囲まれた大阪から子どもたちを連れてきて、自然に触れさせるための道場として開かれました。常時60人くらいの人々が親子で、ご夫婦で参加しています。赤目四十八滝の山手に棚田を買い、観光農業として有効活用し米を作ります。早春には種まきで苗代作り、田植えから稲刈りまでの間に農業としては過酷な夏の草取りもあります。この農法は耕さず、肥料も与えない、農薬も使わない自然農。人にも環境にもやさしい農法です。作る米は赤米。これは稲穂のとげでイノシシやシカが嫌がり、荒らされにくい種類だとか。生き物とふれあい、自然の営みを学ぶ場所となり、海外や日本各地からも学びに来られるそうです。新卒入社の社員は田植え、稲刈り、脱穀まで手伝い。来年は草刈、草取りも手伝ってもらおうかと思っています。古紙が少なくなる中で、自然、資源を大切に、こんな思いを持つ人を育てていかなければならないと思っています。

その他本社ビル1階では自然食品店「パラディーテレスト」も営業しています。

### ●将来のビジョン

現在従業員数は18名。毎年の雇用を継続して40名くらいの総勢になれば新規分野の開拓にも手を付けたいそうです。同友会の合同求人にも参加しています。新入社員には、入ってから1年以内に製紙会社の見学をしてもらい、自分の業務活動が本当にリサイクルとなっているかの確認をすることで随分と捉え方が変わってくるといいます。職業としてやるだけでなくその本質を学び、物を大事にする人を育てていきたいと語りました。

## ～取材を終えて～

家庭から出る僅かの古紙もグループで集めると大きな分量になります。業務上で出た古紙は大量です。集荷選別し加工することにより原材料として次の生命が与えられる、地球レベルの大きなニーズを掲げ、次世代も必ず必要とされる産業であることを感じました。

大学卒業後、大手鋼管会社に勤めていた傍島さんは義父にあたる先代社長から会社を継ぐことを懇願され大いに悩んだそうです。そのときの社是、経営信条には社会から与えられた一つの仕事を天職として全うするとうたわれており、心にしみました。そして3年前、代表取締役を引き継いだ傍島さんの経営理念には、資源の大切さと環境にやさしく人々に信頼されること、感謝と敬愛、企業の進歩向上を掲げられています。この仕事を天職とするゆるぎない社長の理念でした。



大型機密文書細断機



圧縮機ベルトコンベヤー



1トンベースに圧縮された古紙

## Profile

企業名： 近畿産業（株）

所在地：

（本社ビル）大阪市北区中崎町

（本社工場）大阪市北区南扇町

（長田工場）東大阪市長田西

設立：昭和23年

資本金：5,000万円

事業内容：製紙原料の集荷選別加工販売

産業廃棄物収集運搬

自然食品の販売

不動産保全及び賃貸